下野市立古山小学校

１　学校課題

学びをつなぎ、家族ぐるみで歯・口の健康づくりの実践ができる児童の育成
～生きる力を育む歯・口の健康づくりを通して～

２　研究計画

（１）主題設定の理由

「歯・口の健康づくり」を通して、歯のみがき方の指導や基本的生活習慣の確立、食べる機能や食べ方を通した食育の取組、生活安全としての安全指導、安全な環境作り、教職員への研修などを行うことで、学校での様々な学びをつなぎ、家族ぐるみで健康づくりができる児童を育成することは「生きる力」を育むことにつながると考えた。

（２）研究の仮説

①正しい知識・技能を身に付けるとともに、児童が自らの健康課題を明確にし、課題解決のための方法を仲間とともに考えることで、児童の意欲が高まり、主体的な健康づくりができるであろう。

②教職員と児童の協働による日常の指導・児童会活動・行事等の充実や環境整備を行うことで、活動の習慣化が図られ、学校全体の歯・口の健康への意識が高まり、児童が自ら進んで健康づくりに取り組むことができるであろう。

③家庭・地域・関係機関が連携した教育活動を推進することにより、家庭や地域の健康課題を意識し、生涯を通じて健康な歯・口でいるための実践力が身に付くであろう。

３　研究内容

授業研究部、日常指導・環境整備部、啓発部の三つの部で取組を行った。

（１）　授業研究部の取組

①　発達段階を意識した歯みがきと食育の授業

児童自らが健康課題を意識することで､課題解決に向かって主体的に活動することができる。そこで、学年に応じて歯科検診の結果や給食の実際の食材を用いたり、歯科衛生士、養護教諭、栄養教諭がゲストティーチャーとして関わったりして、正しい知識の定着を図った。児童一人一人が課題意識をもち、授業に取り組んでいた。

②　教科横断的な指導

学年・単元名	授業の工夫・手立て	児童の様子
３年　学級活動 「大切ないのちの守り方」	・養護教諭とともに簡単なけがの手当や、歯のけがへの対応について指導した。いろいろな場面を想起させ、今後の自分について考えられるようにした。	○正しい手当の知識を得て、実践への意欲が高まっていた。 ○けがへの対応だけではなく、友達を大切にしようと考えている児童もいた。
４年 学級活動「しっかりかんで歯っぴーになろう」	・自分の噛む力を調べる活動にＩＣＴ機器を使用したり、栄養教諭の話を聞いたりして、よく噛んで食べることの良さに気付けるようにした。	○よく噛んで食べることに興味をもち、必要な工夫について自分なりの方法を考えていた。 ○給食や家庭での食事で、実践しようとする姿が見られた。
５年 体育科（保健領域） 「けがの防止」	・ＩＣＴ機器を使用して、意欲的に課題を見付け、解決方法を考えられるようにした。 ・委員会の活動も取り上げ、学びをつなげられるようにした。	○ＩＣＴ機器を使用したことで、児童が主体的に話し合っていた。 ○授業外での活動とのつながりを再確認することができていた。

６年 体育科（保健領域） 「病気の予防」	・生活習慣をふり返ったり、学校歯科医や歯科衛生士の話を聞いたりして、自分の健康課題の解決方法を考えられるようにした。	○具体的なデータから自分の生活を見直し、実践しようと考えていた。 ○友達との対話を通して新たな解決方法を学んでいた。
４・５・６年 総合的な学習の時間 「kid's 歯ッカソン」	・歯・口の健康に関する身近な問題を取り上げ、商品開発を通して解決方法を学べるようにした。 ・授業参観で実施することで、保護者への啓発も行った。	○「課題を解決する商品を開発する」という目的を明らかにすることで、主体的に取り組む姿が見られた。 ○歯・口の健康への関心が一層高まっていた。

（２）日常指導・環境整備部の取組

①給食の時間の取組

毎日の給食指導において、噛むことの大切さや５つの味と五感を使い味わって食べることについて啓発活動を行った。

②委員会の取組

すべての委員会が歯・口の健康づくりに関する活動を取り入れた。児童の豊かな発想から出た取組を、児童から児童へつなぐことで、学校全体での健康づくりの充実を図った。

（３）啓発部の取組

①家庭との連携

歯っぴー給食（毎月８日）と連携した「歯っぴーチャレンジ」を金土日の３日間行った。歯みがき・噛むこと・５つの味と五感について、学校と家庭で取り組んだ。「家でも噛み応えのある献立が出た」などの感想もあり、家庭との連携になった。

②小中一貫教育

「いしばし元気っ子週間」を設定し、中学校区の小・中学校が同じ資料で「おやつの食べ方」や「歯のけがの予防と手当て」について指導した。その後、家庭で歯垢染め出しを行った。親子や兄弟姉妹など家族で行うことができ、「１年目と比べてよくみがけていた。」との感想もあった。家族ぐるみでの歯みがきの実践となった。

③地域との連携

大人向けに歯肉炎についてのリーフレットを作成した。公民館で展示をするとともに、回覧板に同様の資料を載せ啓発を行った。また、児童館にも歯のみがき方の資料を展示した。児童が作成した折り紙の歯ブラシをプレゼントとして置き、来館者が自由に取れるようにした。遊びに来た幼児が人形に歯みがきをさせている姿や他校の小学生が折り紙を持ちかえる様子などが見られ、地域への啓発になった。

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

○各学年の発達の段階を考えて専門家との授業を行うことで、児童と教職員の歯・口の健康づくりへの理解が深まり、主体的な健康づくりに取り組むことができた。また、教科横断的な学習や日常活動の充実などカリキュラムマネジメントの実践となり、学びをつなぐことができた。

○児童が学んだことを家庭や地域に広げることで、家族ぐるみの実践に大きくつながった。これは生涯を通じての実践力になると考える。

（２）研究の課題

○歯・口の健康づくりは、家庭での取組が重要であり、学校の取組をきっかけに家庭や地域で実践し続けられるような活動の継続が課題である。そして、児童の家庭状況や個々の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える健康課題に対応できるよう教職員間で連携し、個別に支援できるような体制や取組の工夫が必要である。